

インパクト・エコノミーの

# 地殻変動

未来への扉が開く3日間

社会的インパクトに関する年次カンファレンス

**Social Impact Day 2025**

**5.14 WED → 5.16 FRI**

主催：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ

- セッション一覧 -

Day1: 2024年5月14日 (水)		Day2: 2024年5月15日 (木)		Day3: 2024年5月16日 (金)	
09:40-10:00 (20分)	オープニング・トーク ～Welcome to Social Impact Day 2025!!	09:30-10:40 (70分)	スペシャルセッション② 新たなサステナビリティ開示基準TISFDとは？～基礎を学び、 基準制定に向けた参画を考える	09:30-10:20 (50分)	TBD
10:00-11:00 (60分)	基調講演 「ベータ・アクティビズム」への招待～資本主義の土台を動かす			10:30-11:20 (50分)	TBD
11:10-12:10 (60分)	TBD	10:50-11:50 (60分)	TBD	11:30-12:20 (50分)	TBD
～ランチタイム～		～ランチタイム～			
13:00-13:50 (50分)	セッション① 『インパクト投資は世界をよくしているか』論争を超えて ～それぞれの山の登り方を理解する～	13:00-13:50 (50分)	TBD		
14:00-15:00 (60分)	協賛セッション① 自然資本・生物多様性をインパクトで読み解く	14:00-15:00 (60分)	TBD		
15:10-16:10 (60分)	スペシャルセッション① 信頼を礎に学習と変革を促進する～トラスト・ベースド・フィランソピーの可能性	15:10-16:10 (60分)	TBD		
16:20-17:20 (60分)	協賛セッション② インパクト“K”プロジェクト座談会 2025 ～共創と協働による インパクト・エコノミーの拡大へ向けて～	16:20-17:20 (60分)	TBD	18:00-20:00 (120分)	対面交流会

5月14日(水)

09:40 - 10:00

## 【オープニング】

# オープニング・トーク ～Welcome to Social Impact Day 2025!!

毎年恒例となりました、社会的インパクト評価・マネジメントに関する国内外の最新動向をお伝えするイベント「Social Impact Day」が今年も幕を開けます。第9回となる Social Impact Day 2025 (SID2025) は、『インパクト・エコノミーの地殻変動』をテーマに、拡大しながらも変革の時を迎えているインパクト・エコノミーが次のフェーズへ進むための道筋を探ります。オープニング・トークでは、SID2025の見どころについて、SIMIの理事たちが熱く語ります。



今田 克司

Speaker



伊藤 健

Speaker



幸地 正樹

Speaker



高木 麻美

Speaker



鴨崎 貴泰

Moderator

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め、国内外で市民社会強化の分野でのNPOマネジメント歴25年。2013年帰国後、セクターを超えてインパクト・マネジメントの普及に力を入れている。現在ほかに、(株)ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役、(一財)CSOネットワーク常務理事を兼任するほか、(特活)日本評価学会副会長・研修委員長、休眠預金等活用法における指定活用団体である日本民間公益活動連携機構(JANPIA)評価アドバイザー、国際協力機構(JICA)事業評価外部有識者委員会委員、インパクト・コンソーシアム データ指標分科会座長等。2022年8月より国連開発計画(UNDP)SDGインパクト基準(企業・事業体版)研修認定トレーナー。

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン 代表理事

米国にてMBA取得後、GE Internationalに入社。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師。内閣府「社会的インパクト評価の普及促進に係る調査」有識者委員等を歴任。

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、ケイスリー株式会社 代表取締役

PwCコンサルティングで官公庁向け戦略策定等の経験を経て、2016年ケイスリー創業。行政、投資家や財団、企業やNPOなど多様な団体と協働し、インパクト投資やインパクト測定・マネジメント(IMM)、成果連動型官民連携事業(PFS/SIB)の導入支援など、社会課題解決を軸にしたコンサルティングサービスを提供する。その他、琉球大学非常勤講師(専門:インパクト投資/SIB)、内閣府PFSアクションプラン検討会議民間有識者、内閣府市町村施策支援アドバイザー等を兼務。沖縄県中頭郡読谷村在住。

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、株式会社Stem for Leaves 代表取締役

多様な業種における全社戦略・部門別戦略の策定・実行支援のほか、新規事業立ち上げ支援、M&A、企業再生等の実績を有する。公共セクターに対しては、調査研究や事業実施支援の経験を有し、近年はインパクトの可視化やデータ活用に注力している。PwCコンサルティング、ペイン・アンド・カンパニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人を経て(株)Stem for Leavesを設立し、代表取締役に就任、現在に至る。多摩大学社会的投資研究所客員研究員。早稲田大学政治経済学部卒業。ワシントン大学行政経営大学院修士課程修了(MPA)。

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 専務理事、認定NPO法人日本ファンドレイジング協会 常務理事/社会的インパクトセンター長、長野県立大学客員准教授

グロービス経営大学院卒業(MBA)。環境コンサルティング会社を経て、2009年公益財団法人信頼資本財団に設立時より参画し事務局長を務め、社会起業家に対する無利子・無担保融資事業やNPOのファンドレイジング支援事業を行う。2014年NPO法人日本ファンドレイジング協会へ入職し事務局長を務め、2019年からは常務理事も兼務。2020年5月からは合同会社シッカイヤを創業して代表に就任。SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)の日本導入や社会的インパクト評価・マネジメントの推進などに従事。

日英  
同時通訳

5月14日(水)

10:00 - 11:00

## 【基調講演】

# 「ベータ・アクティビズム」 への招待～資本主義の土台を 動かす

「Moving Beyond Modern Portfolio Theory: Investing That Matters（「良い投資」とβアクティビズム：MPT現代ポートフォリオ理論を超えて）」を執筆した、Jon Lukomnik氏とJames P. Hawley氏が登壇します。

今日の経済システムの基盤として挙げられる現代ポートフォリオ理論（MPT）ですが、登壇する両氏は、MPTが時代遅れになったこと、また現代のシステムリスクに対応し、資本主義の限界を克服するために「ベータ・アクティビズム」に象徴される一人一人の積極的関与が必要であることを指摘しています。

サステナビリティ課題に効果的に取り組むうえで、資本主義の限界が指摘される中、

「今日の資本主義社会を形成している根本的な経済的枠組みとは何なのか？」  
「現代におけるシステムリスクとは？」  
「ベータ・アクティビズムとはいかなるもので、誰がそれを主導、支援、賛同すべきなのか？」

これらの問いかけについて議論し、参加者のアクションを求めていきます。



Speaker

Jon  
Lukomnik 氏



Speaker

James P.  
Hawley 氏



Moderator

今田 克司

Adjunct Professor of International and Public Affairs and The Brandmeyer Fellow for Impact and Sustainable Investing, Columbia University

Jon Lukomnik は、1,000億ドル以上（ニューヨーク市の年金基金を含む）の投資顧問や信託受託者を務め、総資産1兆ドル以上の機関投資家にコンサルティングを行っている。また、国際コーポレート・ガバナンス・ネットワーク（ICGN）およびガバナンス・メトリクス・インターナショナル（現MSCI）を共同設立。IRRCインスティテュートのエグゼクティブ・ディレクター、ケンブリッジ大学ジャッジ・ビジネススクール（英国）のペンブローック国際金融客員教授を歴任。ICGNから生涯功労賞を授与されるなど、多くの荣誉に輝いている。

Professor Emeritus, School of Economics and Business, Saint Mary College of California

James Hawley は、セント・メリーズ・カレッジ カリフォルニア 経済・経営学部の名誉教授で、以前はカリフォルニア大学デービス校の助教授、ウェルズ・ファーゴ銀行でリスクアナリストも務めた。著書に、国際銀行とグローバル通貨システムに関する最初の著作『Dollars and Borders』（1987年）や『The Rise of Fiduciary Capitalism』（2001年）があり、また Jon Lukomnik との共著に『Beyond Modern Portfolio Theory: Investing that matters』（2021年）、共編著に『Corporate Governance Failures: The role of institutional investors in the global financial crisis』（2011年）があるなど、50以上の学術論文の著者（または共著者）を務めている。

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表  
理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国（6年）、南アフリカ（5年半）含め、国内外で市民社会強化の分野でのNPOマネジメント歴25年。2013年帰国後、セクターを超えてインパクト・マネジメントの普及に力を入れている。現在ほかに、（株）ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役、（一財）CSOネットワーク常務理事を兼任するほか、（特活）日本評価学会副会長・研修委員長、休眠預金等活用法における指定活用団体である日本民間公益活動連携機構（JANPIA）評価アドバイザー、国際協力機構（JICA）事業評価外部有識者委員会委員、インパクト・コンソーシアム データ指標分科会座長等。2022年8月より国連開発計画（UNDP）SDGインパクト基準（企業・事業体版）研修認定トレーナー。

5月14日(水)

13:00 - 13:50

## 【セッション①】

# 『インパクト投資は世界をよくしているか』論争を超えて～それぞれの山の登り方を理解する～

「インパクト投資」の残高が伸び政府等の関与も強まる中で、「本当にインパクト投資は世界をよくしているのか？」という声が上がりはじめています。特に、初期からのインパクト投資の推進者が目指していた「未来」に、今、私たちは立っているのでしょうか？「インパクト貨幣価値換算」「インパクトと企業価値との関連」等の掛け声も大きいですが、リターンが出せないインパクト投資も重要との意見もあります。多様なアクターが参入した現在、今後の業界の発展を考えるために、お互いの立場を理解し、この論争を超えるための議論を行います。

【セッション共催：インパクト志向金融宣言 (IDFI)】



Speaker

山中 礼二 氏

一般財団法人KIBOW インパクト・インベストメント・チーム ディレクター / グロービス経営大学院教員

キャノン株式会社で新規事業の企画・戦略的提携に携わった後、グロービスに参加。グロービス・キャピタル・パートナーズでベンチャー企業への投資と経営支援を担当。その後、医療ベンチャーのヘルス・ソリューション(専務取締役COO)、エス・エム・エス(事業開発)を経て、2013年よりグロービスに復帰。2015年にKIBOW社会投資ファンドを設立し、社会課題を解決に導くスタートアップ向けにインパクト投資を行っている。認定NPO法人STORIA理事。



Speaker

岡本 純宜 氏

農林中央金庫 経営企画部 サステナブル経営班 部長代理

2010年に農林中央金庫入庫。大阪支店・本店営業第四部・シンガポール支店にて法人融資、営業企画部にて海外・外貨融資の企画や企業向け融資にかかるサステナブルファイナンス企画業務を担当。2023年4月より経営企画部にて農林中央金庫自身のサステナビリティ戦略策定・情報開示を担当しており、農林中央金庫全体のインパクトファイナンスやインパクト評価にかかる戦略策定・企画・実践支援業務に従事。



Speaker

谷津 もゑり 氏

株式会社三井住友銀行社会的価値創造推進部 事業企画グループ

2020年に三井住友銀行入行。新宿西口法人営業第三部、サステナビリティ企画部を経て2024年4月より現職。インパクト投資・評価、および重点課題である「貧困・格差」における社会的価値創造の事業開発業務に従事。



Moderator

小笠原 由佳 氏

インパクト志向金融宣言 事務局長代理

国際金融、政府開発援助、民間公益活動、企業の成長支援、サステナビリティ経営/インパクト投資等の促進を通して行政・民間・公益の異なる3セクター間において利益追求と同時に社会へのインパクトを創出する活動に20年以上従事(JBIC、JICA、ベイン・アンドカンパニー、SIIF等)。現在は、インパクト志向金融宣言にてインパクト投資の促進に従事。日清食品ホールディングス等上場企業の社外取締役を兼職。

5月14日（水）

14:00 - 15:00

## 【協賛セッション①】

# 自然資本・生物多様性をインパクトで読み解く

複雑化する環境課題は、各々が相互に関連し影響しており、複合的な観点からの対応が求められるとの認識が国際的に広がっています。これを可能にし、統合的に評価し取り組むためのカギはインパクトだとい（みずほ）は考えています。

本セッションでは、持続可能な社会の実現に向けて、足元で最重要課題である気候変動（脱炭素）と密接に関連する「自然資本・生物多様性」に関する取り組みを軸にしたディスカッションを通じて、複雑化・多様化する課題への統合的な取り組みの重要性を共有し、気づき・学びの場としたいと考えます。

【協賛：株式会社みずほフィナンシャルグループ】



Speaker

平野 裕子 氏

株式会社みずほフィナンシャルグループ 株式会社みずほ銀行 サステナブルプロダクツ部 部長

みずほ銀行で中堅中小企業営業担当後、みずほリサーチ&テクノロジーズで受託調査・研究業務に従事。その後、みずほフィナンシャルグループで、サステナビリティ戦略・方針の策定・推進を担当。2022年にサステナビリティ企画部を新設以降、気候変動対応、自然資本保全、人権尊重など多岐にわたる取り組みを推進。2024年4月より現職にて、お客さま向けのサステナブルファイナンス組成・開発に従事。

決まり次第、更新いたします。

調整中

Speaker

調整中

Speaker

決まり次第、更新いたします。



Moderator

大谷 智一 氏

株式会社みずほフィナンシャルグループ 株式会社みずほ銀行 サステナブルビジネス部 サステナビリティ・チーフストラテジスト

農林水産業、バイオテクノロジー、再生可能エネルギーなど生物資源に関連する専門性をベースに、サステナビリティ全般の事業開発およびインパクトファイナンス等サステナファイナンスの商品開発を担当。現職では、自然資本、サーキュラーエコノミー、インパクト分野のビジネス戦略策定を統括。

5月14日（水）

15:10 - 16:10

## 【スペシャルセッション①】

# 信頼を礎に学習と変革を促進 する～トラスト・ベースド・ フィランソロピーの可能性

社会課題が多様化・複雑化する昨今、非営利団体には、柔軟かつ迅速に課題解決に取り組むための新しい視点が求められています。こうした背景のもと、世界的に注目を集めているのが、資金提供者と受け手が「信頼」を基盤に共創と学びを深めながら社会変革を目指す、トラスト・ベースド・フィランソロピー（Trust-Based Philanthropy）です。

本セッションでは、トラスト・ベースド・フィランソロピーの実践が、資金提供者と受け手の双方にどのように戦略的価値をもたらし、持続的なインパクト創出につながるのかを掘り下げます。一見、「信頼」と「インパクト」は相反するように思えるかもしれませんが、これは決してインパクト測定を放棄するものではなく、むしろ「学び」のプロセスを強化し、資金提供者と受け手が共創的に評価に取り組むことで、長期的・本質的な変革を可能にするアプローチです。

企業のCSR・サステナビリティ担当者、財団、非営利組織、中間支援組織など、資金を提供する側・受け取る側のすべてにとって、本セッションは新たな視点と具体的なヒントを提供します。従来のモデルを超えて、信頼の連鎖による協働学習と共創が生み出す持続的なインパクトとは何か——その未来を、ぜひ共に考えましょう。

【セッション共催：一般社団法人トラスト・ベースド・フィランソロピー・ジャパン

調整中

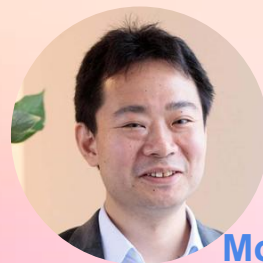
Speaker

決まり次第、更新いたします。

調整中

Speaker

決まり次第、更新いたします。



Moderator

番野 智行 氏

一般社団法人トラスト・ベースド・フィランソロピー・ジャパン 代表  
理事／NPO法人ETIC. ソーシャルイノベーション事業部 事業統括

NPO法人ETIC.にて、社会課題に向き合う営利・非営利組織に対する支援プログラムの企画・運営をリード。50を超える企業や行政、財団との協働を通して支援した団体数は、2002年の参画以降1,000を超える。資金の出し手・受け手の双方を経験する中で、複雑な社会課題に対して本質的な変化を生み出すには、信頼関係に基づいて無駄な仕事を減らし、学び合い、それぞれが進化し、力を合わせていくことが不可欠と確信。日本にも学びと実践のコミュニティを広げるべく、2025年2月のTBP-J設立に参画。

5月14日（水）

16:20 - 17:20

## 【協賛セッション②】

# インパクト“K”プロジェクト座談会 2025～共創と協働によるインパクト・エコノミーの拡大へ向けて～

昨年のSocial Impact Day2024で好評を博した、あの「インパクト“K”プロジェクト座談会」が帰ってくる！

かんぼ生命によるインパクト投資の認証フレームワーク「インパクト“K”プロジェクト」を通じて集まった、業界をリードするインパクト投資家が熱く語ります。実効性のあるインパクト投資ファンドの在り方とは？ ファンド運用者と機関投資家とのパートナーシップの形とは？ インパクト・エコノミーの拡大に向けた貢献とは？ 共創・協働をテーマとした「インパクト投資の未来」にご注目下さい！！

【協賛：株式会社かんぼ生命保険】



Speaker

佐野 悠一郎 氏



Speaker

宇田 直樹 氏



Speaker

松本 英高 氏



Moderator

高木 麻美

Beyond Next Ventures 株式会社 Principal | Head of India Investments (Japan)

国際協力銀行・国際協力機構にて約15年間、一貫して開発途上国での事業に取り組む。融資からエクイティ投資まで様々な金融商品を扱う。インドに4年間駐在。2021年にBeyond Next Venturesに参画。インドのスタートアップへの新規投資、投資先支援、日本企業とのオープンイノベーションを推進。全社的なインパクト投資活動もリード。早稲田大学政治経済学部卒業。ハーバード大学公共政策学修士。

株式会社環境エネルギー投資 取締役 パートナー

2006年にみずほ証券に入社。ユーティリティ企業が発行する債券引受等のファイナンス関連業務に携わった後、本社企画部門において対外広報業務に従事。2016年より環境エネルギー投資に参画。2019年に取締役就任し、環境エネルギー分野のスタートアップへの投資を行うとともに、ファンド組成業務およびインパクトに関連する業務等を統括。2018年に組成した4号ファンドから投資先に対するインパクト測定およびインパクトマネジメントを開始し、2022年に組成した5号ファンドにおいても同様の取り組みを推進。

株式会社かんぼ生命保険 オルタナティブ投資部 プライベートエクイティ投資担当 専門役

慶應義塾大学大学院修了後、かんぼ生命入社。入社以降、主に資産運用部門においてキャリアを積み重ねてきた。現職では、プライベートエクイティ投資を担当し、インパクト投資プログラムの立ち上げを主導。現在は、インパクト領域を中心としたファンド投資業務に従事している。

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 業務執行理事、株式会社Stem for Leaves 代表取締役

多様な業種における全社戦略・部門別戦略の策定・実行支援のほか、新規事業立ち上げ支援、M&A、企業再生等の実績を有する。公共セクターに対しては、調査研究や事業実施支援の経験を有し、近年はインパクトの可視化やデータ活用に注力している。PwCコンサルティング、ペイン・アンド・カンパニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人を経て（株）Stem for Leavesを設立し、代表取締役に就任、現在に至る。多摩大学社会的投資研究所客員研究員。早稲田大学政治経済学部卒業。ワシントン大学行政経営大学院修士課程修了（MPA）。



日英  
同時通訳

5月15日（木）

09:30 - 10:40

## 【スペシャルセッション②】

# 新たなサステナビリティ開 示基準TISFDとは？～基礎 を学び、基準制定に向けた 参画を考える

サステナビリティ情報開示のための新しいグローバル・タスクフォース「不平等関連財務情報開示タスクフォース（TISFD）」が2024年秋に発足し、その運営委員会メンバーが1月に発表されました。SIMIIはTISFDアライアンスに参加しており、TISFDの枠組みは2027年初旬までに完成する予定です。

本セッションでは、TISFDの2名の運営委員をお招きし、そのビジョンと目標、そしてマルチセクターの関係者がフレームワークの形成にどのように参加できるかを紹介します。また、日本企業やその他のステークホルダーへの影響についても議論していきます。



Speaker

Delilah  
Rothenberg 氏

Co-Founder and the Executive Director of the Predistribution Initiative (PDI) / Member, Steering Committee, TISFD

Delilah Rothenberg は、労働者や地域社会とより多くの富と影響力を共有するための測定・管理ツールや投資構造の特定において投資家を支援しているマルチステークホルダー型の非営利団体「Predistribution Initiative (PDI)」の共同設立者であり、エグゼクティブ・ディレクターを務める。プライベート・エクイティ投資家、融資担当者、プロジェクト開発者等と20年以上にわたって資金調達やサステナビリティ、インパクト戦略について協働し、また様々な委員会、諮問グループ、作業部会のメンバーとしても活躍。



Speaker

木村 武 氏

日本生命保険執行役員、PRI（国連責任投資原則）理事

日本生命保険執行役員、PRI（国連責任投資原則）理事 1989年に日本銀行入行。米国連邦準備制度理事会（FRB）出向を経て、企画局政策調査課長、松江支店長、金融機構局審議役、決済機構局長を歴任。長年、金融政策や金融システムの調査・分析に携わったほか、中央銀行デジタル通貨（CBDC）の実証実験ロードマップの設計を主導した。この間、FSB/AGV（金融安定理事会、脆弱性分析グループ）やBIS/CPMI（国際決済銀行、決済・市場インフラ委員会）のメンバーとして活動。2020年に日本生命保険に入社。2021年にPRI理事に就任。Policy Committee、Governance Committee、Finance, Audit and Risk Committeeの3委員会のメンバー。23年末に理事再任（2024～26年の任期）。工学博士（東工大）。経済学修士（米イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校）。



Moderator

今田 克司

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表  
理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国（6年）、南アフリカ（5年半）含め、国内外で市民社会強化の分野でのNPOマネジメント歴25年。2013年帰国後、セクターを超えてインパクト・マネジメントの普及に力を入れている。現在ほかに、（株）ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役、（一財）CSOネットワーク常務理事を兼任するほか、（特活）日本評価学会副会長・研修委員長、休眠預金等活用法における指定活用団体である日本民間公益活動連携機構（JANPIA）評価アドバイザー、国際協力機構（JICA）事業評価外部有識者委員会委員、インパクト・コンソーシアム データ指標分科会座長等。2022年8月より国連開発計画（UNDP）SDGインパクト基準（企業・事業体版）研修認定トレーナー。